

しなの鉄道 安全計画 2015

当社ではこれまで、安全・安定輸送実現のため、年度ごと安全計画を定め取り組んできました。

平成27年3月に開業した北しなの線は、当社にとって初めて経験する単線であると共に、地形的にも厳しい線区であり、これを踏まえて万全の体制をもって、安全・安定輸送の実現をめざします。

1. 基本方針

(1) 更なる安全管理体制の強化

- ア. 法令及び安全管理規程を遵守し、請負工事会社を含めた安全管理体制の下、坂城構内事故の教訓を風化させることなく、安全に対するソフト面・ハード面の取組を通じ、総合的な安全対策を強化していきます。
- イ. 安全推進委員会において、事業の計画実行管理状況の検証、再発防止策の策定及び、潜在的なリスクに対する対応策の策定等、輸送の安全水準維持・向上を推進します。
- ウ. 訓練会、安全大会の充実を図り、「気づく力」「考える力」を強化し社員一人一人の安全意識の向上を図ります。
- エ. 運輸安全マネジメント内部監査で指摘を受けた課題に速やかに対処すると共に、好事例を含めた情報を社内で水平展開し、安全管理体制の改善に努めます。

(2) 北しなの線の安全・安定輸送のための取り組み強化

- ア. 北しなの線は当社にとって初めて経験する単線であるとともに、地形的にも厳しい線区です。JRから引き継いだノウハウや知識の継承と共に、巡視・添乗により現地の状況を詳細に調査し体得することにより、社員のスキルアップを図ります。
- イ. 北しなの線は、豪雪線区で雪害等が予想されます。冬期には要員を強化し、お客様に安心してご利用いただけるよう、万全の体制を構築します。

(3) 施設・設備等の維持更新、安全性向上

各種保守点検等を定期的実施し、施設・設備等の維持更新を計画的に実施し、安全性向上に努めます。

(4) 自然災害への取り組み強化

昨年県内では、長野県北部を震源とする地震や、御嶽山の噴火等多くの自然災害が発生しています。浅間山の噴火や、自然災害に迅速・的確に対応できるようにすると共に関係機関との連携を強化するため、総合防災訓練を実施します。

(5) 事故発生時の迅速な対応

お客様の安全を最優先に、防災・災害規程及び運転事故応急処理規程等に基づき対策本部を設置する等迅速に対応します。

事故発生時の運行情報について、報道機関、沿線自治体、学校等関係機関と情報連絡体制を再構築し、メール配信システム等によりの確かつ、迅速に情報提供します。

2. 定量的な目標

区分	項目	内容	目標
運転事故	列車事故 (衝突・脱線等)	絶対起してはならない事故として全員で取り組む。	発生させない
	人身障害事故	ホーム上での列車との接触事故、線路転落による事故、駆け込み乗車の危険等への注意喚起に努める。	発生させない
	踏切障害事故	キャンペーン等を通じて事故防止のPRに努める。	発生させない
	鉄道物損事故	絶対起こしてはならない事故として全員で取り組む。	発生させない
	インシデント	運転事故には至らないが、事故が発生する恐れがあると認められる事象を発生させないように取り組む。	発生させない
	輸送障害 (部内原因による)	点呼での注意喚起、添乗強化により事故防止に努める。	前年度件数を半減させる

3. 具体的な取り組み

駅など各機関で作成した「運転事故防止重点実施計画」及び「傷害事故重点実施計画」に基づいて計画的に実施してまいります。

取り組み状況を、毎月実施している安全推進委員会でチェック・修正し、社内で水平展開することにより、安全性の向上に努めてまいります。

4. 計画推進のための体制

(1) 安全推進委員会

役員、各管理者、現場長が安全マネジメントの実行状況や安全体制の有効性を話し合う他、事故災害等に対する効果的な再発防止策、潜在的なリスクへの対応策を作成し、その情報を部門をこえて共有します。

(2) 各職場別の研修会等の開催

職場ごとに、業務研修会、訓練会、安全会議等の研修会を開催し、安全情報の共有化及び社員の技術・知識等のレベルアップと承継を図ります。

(3) 繁忙期における安全輸送推進本部の設置と安全総点検の実施

ゴールデンウィーク・夏季・年末年始の輸送繁忙期には、安全輸送推進本部を設置して異常時の即応体制を確立するとともに、安全総点検を実施して安全・安定輸送に万全を期します。

(4) 管理者による現場指導

ア. 社長

主体的に現場に出向き、安全管理体制等に対する意見交換や注意喚起を行います。

イ. 安全統括管理者（運輸部長）

計画的に現場巡回・列車添乗を実施し、常に問題点・改善事項の把握を行います。また、各職場の指導にあたりとともに、意見交換を行います。

ウ. 運転管理者・車両管理者（運転課長）、乗務員指導管理者（運輸区長）
工務管理者（工務課長）

計画的に現場巡回・列車添乗を実施し、常に問題点・改善事項の把握を行います。また、社員の指導にあたりとともに、関係箇所との調整を図ります。

エ. 経営戦略部長

計画的に現場に出向き、安全確保に必要な設備投資、財務及び要員に関する問題点・改善事項の把握を行います。

5. 安全のための設備投資・修繕計画

(1) 設備投資計画

(単位：百万円)

総 額	内 訳		
	施設・電気	車両	駅舎
465	342	50	73

主な設備投資

《施設・電気》

- ・ レール交換及びマクラギ締結装置取り替え (34)
- ・ 小諸高架橋耐震設計 (45)
- ・ 電車線支持物建替 (52)
- ・ 変電所設備交換 (27)

《車両》

- ・ A T S - P、P S 試験装置 (23)
- ・ 車両E B装置及び無線装置の改修 (23)

《駅舎》

- ・ 屋代、小諸駅エレベータ設計 (73)

(2) 修繕計画

(単位：百万円)

総 額	内 訳		
	線路保存費	電路保存費	車両保存費
836	354	142	340

- ・ 線路保存費・・・MTT、橋梁修理、伏び（排水路）、支障木伐採
- ・ 電路保存費・・・き電線張替、支持物塗装、電車線金具修繕
- ・ 車両保存費・・・全般検査、重要部検査

以上